

平成 26 年度 第 2 回 新潟市食育推進会議

日 時：平成 27 年 3 月 25 日（水）午後 2 時～

会 場：新潟市食育・花育センター 2 階 講座室 A

司会：黒崎	<p>ただいまより、平成 26 年度第 2 回新潟市食育推進会議を開催させていただきたいと思います。</p> <p>会議開催にあたり、新潟市農林水産部長の松宮より皆様にごあいさつ申し上げます。</p>
農林水産部長：松宮	<p>皆さんこんにちは。新潟市農林水産部長の松宮でございます。本日は年度末の大変お忙しいなか、委員の皆様にご参集いただきまして、誠にありがとうございます。今年度第 2 回目の食育推進会議の開催にあたり、一言ごあいさつ申し上げたいと思います。</p> <p>当食育・花育センターにおきましては、オープンから 3 年 5 か月が経ちまして、今年度は 42 万人ほどの市民の皆様からご来館いただいている状況でございます。皆様からのご支援、ご指導をいただきまして、大変好評を博しているのではないかとということで、心から感謝申し上げたいと思っております。</p> <p>本市では、今年度新たに向こう 8 年間の市の総合計画でございます「にいがた未来ビジョン」を策定しました。また、同時並行的に、分野別計画でございます「農業構想」も策定しているところでございます。この中におきまして、食育などを通じて、食と農を通じた人づくり、地域づくりや、食と花の理解を深め農のある暮らしづくりを計画に位置づけているところでございます。当センターでは、これらの施策の中心的な役割を果たしていきたいと考えており、いくとびあ食花の各施設やアグリパークなどと連携しながら団体プログラム、季節ごとのイベントなどを実施し、食育・花育・農業体験などの市民の皆様に関心の高いさまざまな体験を、子どもから大人まで楽しく伝えていきたいと考えております。また、2 年目を迎えます農業体験プログラム「アグリ・スタディ・プログラム」になりますけれども、こちらのほうも本格的に実施し、新たに幼稚園や保育園向けのプログラムも実施していきたいと考えております。これらを通じまして、食や農業の大切さ、楽しさなどへの理解を深めてまいりたいと考えております。</p> <p>話は少し変わりますが、去る 3 月 3 日に、内閣府の都道府県政令指</p>

<p>農林水産部 長：松宮</p>	<p>定都市食育推進所管課長会議というものが開催されました。この中におきまして、食育の推進については平成 17 年に食育基本法が制定され、これ以来内閣府が中心となって推進してきた食育でございますが、平成 28 年 4 月をもちまして農林水産省のほうに業務が移管されるということで聞いております。今後は農林水産省が中心となって、文部科学省、厚生労働省などの関係省庁と連携しながら食育を推進していくということになります。当センターとしましては、今後も国の機関はもとより農林水産部の各所属とも一体となりながら食育の推進、農業・農村の活性化というものに努めていきたいと考えております。</p> <p>本日は、来年度の本市の食育にかかわる予算、重点事業などを説明させていただきたいと思っております。また、第 3 期食育推進計画の策定に向けての今後の方向性、スケジュールについてもご協議させていただきたいと考えております。委員の皆様からの忌憚のないご意見をいただきながらよりよいものに進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>簡単ではございますが、開会のあいさつとさせていただきます。本日は、よろしくお願いいたします。</p>
<p>司会：黒崎</p>	<p>部長につきましては、公務のためここで退席させていただきます。</p>
<p>農林水産部 長：松宮</p>	<p>最初のあいさつだけで大変申し訳ございませんが、よろしくお願いいたします。</p>
<p>司会：黒崎</p>	<p>それでは、会議に入らせていただきます。</p> <p>私は、本日の進行を務めさせていただきます食育・花育センターの食育係の黒崎です。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>本日の出席者につきましては、皆様のお手元にあります座席表にお示ししているとおりですけれども、五十嵐委員が欠席となっております。併せまして、市野瀬委員につきましても、本日の午前中に連絡が入りまして欠席となっております。</p> <p>また、本日食育関係者といたしまして、保健所健康推進課、保健所食の安全推進課、農業政策課、食と花の推進課、農業特区・農村都市交流課、教育委員会保健給食課、保育課も同席しておりますことを報告いたします。</p> <p>確認事項です。議事に入る前に二つ確認させていただきます。</p> <p>まず 1 点目、配布資料についてです。資料につきましては、事前に皆様に郵送で一括お送りさせていただいたところですが、会議の次第の裏面に、一覧表となって本日使う資料のほうを示させていただいております。また、本日机の上にクリップ留めした資料を置かせていただきましたが、こちらが本日の追加資料になります。それについて、ご確認をいただきます。</p> <p>まず一番上にありました資料 No. 1 - 1 「食育推進における重点課題への対応実施状況」につきましては、事前皆様に郵送でお送りした資料と差し替えをお</p>

<p>司会：黒崎</p>	<p>願いいたします。次に、両面カラー刷りで三つ折りになっております「確かな学びを子どもたちに」というタイトルのリーフレットと「新規アグリ・スタディ・プログラム（案）」という資料がありますけれども、これは資料1-3になります。これは郵送させていただいた資料の中には入っておりませんでしたので、綴じ込みの中に組み入れていただきたいと思います。大変申し訳ありませんが、この資料には資料No.が振ってありませんので、お手数でも資料1-3と書き加えていただければと思います。よろしくお願ひします。もう1枚、カラー印刷刷りの「平成27年度新潟発わくわく教育フォーラム推進事業の実施」、こちらのほうが資料2-5となります。以上が本日本配布の資料になりますので、事前配布の資料と組み合わせでご覧いただきたいと思います。</p> <p>以上について不明な点、資料の中で不足の部分等がありますでしょうか。よろしいでしょうか。これが本日の資料となります。</p> <p>2点目、会議の録音についてです。当会議は公開となっておりますので、後日ホームページなどで議事録を公開するため録音をさせていただきますので、よろしくお願ひいたします。</p> <p>それでは、これより会長に議事をお願いいたします。村山会長、お願ひいたします。</p>
<p>会 長</p>	<p>よろしくお願ひいたします。</p> <p>新潟市におきましては、施設が本当に充実されて、いろいろなプログラムが多く展開されるようになってきましたが、今日は、平成26年度の事業を振り返って総括いただきまして、平成27年度の事業についてご意見を伺わせていただければということです。</p> <p>先ほど、農林水産部長から42万人の方がこの関連の施設を利用されたという報告がありましたけれども、新潟市民が80万人ですね。延べでいうと二人に一人が利用されたということになるのですが、リピーターではなくて本当に必要な人にきちんと届いているかとか、無関心層にも届くようなプログラムになっているかとか、あるいは有効なプログラムということは実践につながるということが計画のねらいなのですが、実践につながるようなプログラムになっているかという観点からも検討が必要だと考えていますので、ぜひ率直なご意見をいただければと思います。</p> <p>それでは、議事に入っていきたいと思います。まず（1）平成26年度重点課題への対応状況及び食育関連事業実施状況について、事務局よりご説明をお願いいたします。</p>
<p>事務局：和田</p>	<p>では、最初に平成26年度の重点課題への対応状況について説明させていただきます。</p> <p>食育・花育センターの和田です。よろしくお願ひします。</p>

<p>事務局：和田</p>	<p>資料1-1を基に説明させていただきます。先ほどお話がありましたとおり、事前に配布した資料に一部誤りがありましたので、机上に配布させていただいたものをご覧いただきたいと思います。</p> <p>まず、資料1-1の1枚目、A4横の一覧表をご覧ください。こちらの資料は、第2次計画策定の時点で重点課題とされていた「朝食の欠食」、「肥満と低体重」、「食の安全に関する知識」、「食育の推進に関わるボランティア」の四つの課題に対する主な事業を一覧表にまとめたものとなっております。主な対応事業をいつから実施していくのかということで整理して、平成26年度については29の事業を実施することとしておりました。</p> <p>各事業の平成27年2月末時点での実施状況をまとめたものが、1枚めくっていただいた後のA4縦書きの資料になります。それぞれの事業につきまして所管する関係課に照会し、平成26年度の実施状況として報告された内容となっております。いずれの事業も継続実施という形になっておりまして、内容を一部見直しながら昨年度と同等程度の取り組みがなされておりました。これらの取り組みが目標、数値指標に対してどの程度の効果を発揮したかというあたり、また各事業の実施状況の詳しい内容につきましては、毎年作成しております食育推進施策の実施状況報告書をまとめた上で、次回の食育推進会議の際に報告させていただきます。</p> <p>1点、一番最後の29番の食育マスターの部分をご覧いただきたいと思っております。こちらについては平成24年度の制度開始から3年が経ちますが、食育マスターの登録者数が、平成28年度の目標100人・団体に対して、平成26年度2月時点で個人51名、団体8団体、合わせて59人・団体に増えております。また、派遣回数が117回、延べ192人と、昨年度より大幅に増加しております。拠点施設であるこの食育・花育センター以外の場所、市民の皆様により身近な学校や公民館といった場所で、幅広い世代が参加する食育活動の拡大につながっていると考えております。今後、さらにこういった活動が広がっていくよう、また講師、指導者となり得る方たちの活躍の場を一層確保できるように、来年度は食育マスター制度を拡充するという事としております。それについては、議事の2番のところで詳しく説明させていただきたいと思っております。</p> <p>引き続き、食育・花育センターの食育・花育事業の実績について、食育係長の黒崎のほうから説明を申し上げます。</p>
<p>事務局：黒崎</p>	<p>資料1-2をご覧ください。平成26年度食育・花育センター食育関連事業の実施状況について。まず、継続事業と書いてあるところから説明させていただきます。こちらは、市内全域に向けて当センターが所管している事業となります。</p> <p>食育の日ですけれども、食育の日の取り組みといたしましては、昨年に引き続き実施いたしました。6月、10月、3月の19日の日を中心に、市内16社</p>

<p>事務局：黒 崎</p>	<p>25 店舗の飲食店と、11 社 82 店舗のスーパーマーケットなどの協力店におきまして、食育メニューの提供ですとか、食育の普及啓発の取り組みを行いました。</p> <p>次に、食育マスター制度の登録・派遣につきまして、こちらは、今和田のほうからも説明をさせていただいたところですが、平成 24 年度に制度を創設いたしまして今年で 3 年目になりますが、今年度も小中学校をはじめ、幼稚園、保育園、自治会等の依頼により食育に関する講演会や地域の食材を活かした料理、郷土料理の講習会などについて、講師の方よりご指導いただいたところです。今年度は昨年度に比べ、派遣回数及び人数のほうが大幅に伸びておりまして、制度の定着とともに市民ニーズの高さがうかがえます。</p> <p>今回の大幅な派遣回数の増加の内訳を見ますと、派遣先としては新潟市内の小中学校が前年度より圧倒的に多くなっておりまして、前年度と比較してプラス 14 回多くなっています。幼稚園、保育園、子ども会等はプラス 6 回、公民館、自治会、コミュニティ協議会につきましては前年にプラス 8 回、サークル等がプラス 11 回という形で、全体的に増加しているといったところです。</p> <p>また、食育マスターの指導者のほうの登録者数についても、それに伴って増えているわけですが、個人のマスターでは、この会議の委員である田中稔子先生の依頼が、前年度に比べて非常に伸び率、回数ともにトップとなっておりますし、また団体への依頼も多く、これもこの会の委員である二木委員率いる食生活改善推進委員協議会への依頼数が圧倒的に多く 58 件と、マスター全体の中で最多となっております。また、同じく会議の委員である県の栄養士会のほうへの依頼も多く、前年度の 2 倍の依頼となっているような状況で、非常に市民ニーズの高さがうかがえると同時に、皆様のご協力をいただいてマスター制度が円滑に動いていっているということが言えると思います。</p> <p>次に、真ん中の四角になります。食育・花育センターで行った事業についてです。</p> <p>まず、イベント等の食育実践活動についてですが、いくとぴあ食花の各施設と連携しながら、「ゴールデンウィークスペシャル」ですとか、「いくとぴあ食花グランドオープンイベント」をはじめ、季節ごとのイベントで食育の実践活動を行いました。また 9 月に開催した「動物ふれあいフェスタ」では、インターンシップの新潟大学農学部学生に食育ランドの企画や運営をしてもらってイベントを盛り上げるなど、さまざまな取り組みを行ったところです。</p> <p>次に料理教室ですが、年間 101 回の見込みで実施、月に平均しますと 8 回程度を、センター主催の料理教室として開催いたしました。料理教室では、郷土料理、行事食のほか、次世代に伝えたい新潟の料理など、にいがた流 食生活の実践に向けた内容を、季節の食材を使ってテーマ性を持たせて行いました。講師の先生方のお力のもと実施して、本当に大勢の市民の皆様に参加して</p>
--------------------	--

<p>事務局：黒 崎</p>	<p>いただきました。</p> <p>次に、小学校・保育園・幼稚園等を対象とした団体向けの食育体験プログラムでは、朝食の大切さやマナー、食事のバランスなどについて、エプロンシアター、フードモデル、手作りの教材などを使いまして楽しく活動をしてまいりました。また、来年度からいくとびあ育花の各施設でも実施いたします「アグリ・スタディ・プログラム」のモデル実施なども行いました。</p> <p>学生向けのところになりますけれども、職場体験、ボランティア体験、研修、実習などの受け入れについて、中学校や小学校のほか農学部の学生、管理栄養士養成施設等、学生の受け入れを行いました。</p> <p>また、区役所連携事業につきましては、食育・農業体験というような切り口で8区12課で実施していただき、地域での食育の取り組みを進めたところです。</p> <p>一番下の枠で囲ってある事業について、これもセンターのほうで実施している事業ですが、こちらは、予約、事前申込不要の体験として食育・花育センターで実施しています。食育の日に行うミニ講座としまして「わくわく食育探検隊」と事業名をつけていますけれども、それからフードモデルを使った栄養・食生活アドバイス、食育ランドなど、申し込みを不要にすることで来館者が気軽に参加できるようにしています。時間も短時間で実施できるということで、非常に気軽に参加できるような内容にしました。食育ランドについては、毎月の内容を一覧表にして周知したことで、この食育ランドを本当に楽しみにして参加してくれるお子さんも増えて、こちらとしても多様な内容になるように工夫しているところです。</p> <p>以上、簡単ですが、食育・花育センターの食育関連事業になります。</p> <p>続きまして、資料1-3としております教育ファーム推進事業の実施状況についてご説明いたします。</p>
<p>事務局：佐 藤克</p>	<p>食育・花育センター、教育ファーム担当の佐藤と申します。私のほうから、今年度の「新潟発わくわく教育ファーム推進事業」の実施状況について説明いたします。</p> <p>まず、本日お手元に配布しましたA3カラー三つ折りのパンフレットをご覧くださいと思います。このパンフレットは、教育ファームの中心的な取り組みとなります学校の授業と農業体験を結びつけた農業体験学習プログラム「アグリ・スタディ・プログラム」のPRパンフレットになります。これは、来年の4月以降、小学校向けに教師の方々や保護者の方々に、取り組みの趣旨を知ってもらうために配布するもので、今年度1年間の取り組みから、活動写真、子どもの感想、教師の感想などをまとめた内容になっております。</p> <p>「アグリ・スタディ・プログラム」の特徴ですけれども、平成26年度は昨年6月にオープンしましたアグリパークなどの農業体験ができる施設を活か</p>

<p>事務局：佐藤克</p>	<p>しまして、農業体験をとおして学校の授業の内容を充実させ、子どもたちの能力や興味・関心を深める農業体験プログラムの推進、そして、学校が農業体験学習を行う際の経費や人的支援をしていることが特徴的な部分になります。</p> <p>体験にはものすごいパワーがあるのですね。パンフレットの写真をご覧くださいと、どの写真も子どもたちが豊かな表情であることがお分かりになるのではないかと思います。最後のところを見ていただくと、子どもの学習ノートですとか、教師の感想なども記載されています。体験を活かして充実した学びにつながっていくこともお分かりになるかと思います。二つほど事例が載っているのですが、一つ目が、畜産動物の体験をした後に体験したことを絵に表現しましょうという、図画工作の教科と関連したプログラムでの感想になります。もう一つ、下のほうが、梨農園に行って、梨の後ろを見るとめしべとおしべの名残があるのですが、それを活かして理科の学習に絡めたプログラムの感想になっております。後ほど、ご覧いただければと思います。</p> <p>次に、市立小学校なのですけれども、今年度の利用実績について申し上げます。関連する部分がありますので、本日お配りしました資料2-5をご覧くださいとさせていただきます。新潟市内には全部で113校の市立小学校があります。そこで、今回の体験学習を主に三つの利用パターンに分類して実績をお話したいと思います。それぞれのところに平成26年度がいくつ、平成27年度がいくつとありますけれども、平成27年度が来年度の目標校数、平成26年度が今年度の実績の値になります。</p> <p>左側を見ていただくと、宿泊を伴う農業体験学習ということで、これは近隣の農家で活動して、例えば巻にあります県の研修センターに泊まって1泊2日なりの活動をする、また、アグリパークにも宿泊施設がありますので、アグリパークに泊まって農業体験学習をするというようなものになりますけれども、平成25年度と比較しまして平成26年度は約2倍の利用となっています。これは、昨年6月にオープンしたアグリパークの開園による効果が大きいものと考えられます。</p> <p>次に真ん中です。日帰り農業体験学習ということで、アグリパークやいくとびあ食花を活用した日帰りの農業体験学習ということで、これは、今年度が初年度になりますけれども、実績としては延べ57校となります。</p> <p>その下。学校教育田とありますけれども、米作りの学習をいろいろな学校でやっているのですが、その学校のうち、市の学校教育田という事業を活用して実施した学校が79校になります。平成25年度と比較して9校増えました。この要因としては、アグリパークの近くに5反の田んぼを確保したことによって、まちなかの学校は近くに田んぼがないのですが、そのような学校がやりたいということで手を挙げてくれたことによって9校増えたという</p>
----------------	--

<p>事務局：佐藤克</p>	<p>形になっています。</p> <p>本市では、本年度全ての市立小学校での農業体験学習の実施を目標に掲げていました。結果として、アグリパークのオープンですとかそういったことによって、113校全ての市立小学校で農業体験学習を実現することができております。</p> <p>農業体験学習のフィールドとしては、アグリパークのほか、いくとぴあ食花、近隣農家などいろいろとあるのですけれども、現在のところ作っているアグリ・スタディ・プログラムは主にアグリパークが中心で、しかも小学生向けのプログラムが多くなっているのが実情です。そこで、いくとぴあ食花ですとか、近隣農家のプログラム、それから対象の小学校だけではなくて、幼稚園、保育園、中学校、特別支援学校向けのプログラムを充実させたいということで、今年度、現役の教師の方々や保育士の方々からご協力していただいて、新たなプログラムを作成したところです。それが、お配りした資料の「新規アグリ・スタディ・プログラム（案）」という資料になります。</p> <p>来年度は、支援の対象を幼稚園、保育園に拡充する予定でありまして、幼稚園、保育園向けのプログラムを充実させるということになっておりますし、その保育園・幼稚園プログラムの中には、保護者も一緒に参加して体験を共有しましょうというプログラムもいくつか入っております。今現在、これらのプログラムの編集構成作業を行っておりまして、4月中旬くらいには各幼稚園、保育園、学校に配布したいと考えております。</p> <p>教育ファームの普及を図るためには、やはり現場の教師の方々や保育士の方々に取り組みの趣旨を理解してもらって、具体的にどのような体験ができるのかとか、どのようなことを学べるのかということを理解してもらう必要があると考えております。そこで、今年度は113の市立小学校、58の市立中学校、二つの市立特別支援学校、11の市立幼稚園、87の市立保育園の教師の方々、保育士の方々の代表を対象にした研修会をアグリパークのほうで行いました。さらに、今年度新しく採用された教師の方に、初任者研修というものがあるのですけれども、その研修の中にも同様の研修を追加で組み込んでいただきました。現場の教師の方々や保育士の方々が一参加者として施設の利用やプログラムを体験したことで具体的なイメージが創造できまして、この後の教育ファームの充実につながっていくものと考えておりますので、来年度も引き続き研修会を実施する予定であります。</p> <p>特に保育園、幼稚園向けでは、来年度から「菌ちゃんリサイクル元気野菜作り」等の取り組みを本格実施いたします。これは、それぞれ各園におきまして野菜くずを利用して元気な野菜をすることで、ただ野菜作りをするだけではなくて自ら元気な身体作りも考えましょうという、農業体験と食育を組み合わせた取り組みになっております。保育園向けの研修会では、この取り組みの発案</p>
----------------	---

事務局：佐藤 克	<p>者であります長崎県佐世保市のNPO法人大地といのちの会の吉田俊道理事長をお迎えしまして、農に触れる体験と食育の重要性についてお話をいただきました。お話いただいたことで、来年度の取り組みの弾みになったというような状況であります。</p> <p>最後になりますけれども、教育ファームは、来年度2年目として本格実施になります。さらに多くの学校や幼稚園、保育園での利用、そして提供する内容の充実を図りまして、教育ファームを通して農や食についてさらなる理解を深めていければと考えております。</p> <p>私のほうからは、以上となります。</p>
会 長	<p>ありがとうございました。それでは、以上のご説明につきまして、ご質問、ご意見をお受けしたいと思います。いかがでしょうか。</p>
立山委員	<p>今の段階で分かるころがあったら、食育推進事業の味覚月間、味覚週間のほうでしょうか、これについて、もう少し内容を教えていただけたらと思います。</p>
事務局：和田	<p>それにつきましては、議事の2番のところで、新規事業についてはお話をさせていただきます。</p>
立山委員	<p>新規事業のところですか。分かりました。</p>
会 長	<p>そのほかに、ご質問などはございませんでしょうか。渡辺委員、お願いします。</p>
渡辺委員	<p>質問というよりは、大変幅広くといいますか、大変役に立つ活動をやっているんじゃないかと思ひまして、ある意味で感謝申し上げたいという感じがしています。</p> <p>私が一番感じましたのは、2点あるのですが、1点は、食育といいますと、やはり健全者といいますか、元気なお子さんのほうがやりやすいだろうという中で、特別な支援が必要な、あるいは障がい者を含めたお子さんに対してもやっていると、新潟市としての心意気は全国に発信できるいい取り組みかなという点が1点。</p> <p>それから、最初のほうで「菌ちゃんて元気な野菜作り」と。これは私も随分興味がありまして、前にもお話したかどうか忘れましたが、今のお子さんはなかなか漬物を食べないと。食べないのは、やはり核家族化してなかなかおじいちゃん、おばあちゃんと一緒に生活していないと。実は、上越のほうで前からこういう試みをやっている、自分で作ったものを漬けると、子どもさんが自分で体験すると非常にすんなりと漬物も食べるし、またおじいちゃん、おばあちゃんとのコミュニケーションも進む。そういう意味では食育というか、ある意味では人間形成という意味で非常にいい取り組みなのです。そのようなことで、この活動もぜひ継続していただきたいと。そういう感想です。</p>
会 長	<p>ありがとうございました。ほかにいかがでしょうか。</p> <p>関係課のほうで事業を実施して、参加者の反応や市民の方の反応について</p>

会 長	コメントをいただければと思いますけれども。保健所の健康増進課、いかがでしょうか。
健康増進課 ： 笹谷	保健所の健康増進課です。 健康増進課のほうでは、平成 26 年度新規で催したというものはこの中には特にないのですけれども、食育マスターの件で、食生活改善推進委員の事務局を兼ねているというところから、食育マスターの依頼が今年度本当に増えているというところは、食生活改善推進委員の事務局として感じたところです。
会 長	実際に食育マスターとして活躍されていらっしゃる田中委員、参加者の反応や今回やってみての課題など、お気づきの点がありましたら教えていただけますでしょうか。
田中委員	今年度は昨年に比べて食育マスターとしての、私は特に子どもに対しての食育活動をぜひということでご依頼がたくさんありまして、現場に行っております。実際は保育園、小学校で、食育について、実際に子どもたちに何を伝えたらいいのか分からないという教師の方々のご依頼と私は受け取っているのですけれども、子どもたちには、イベント的ではない、お家に帰ってきちんと料理をしてみよう、それができるような指導ということを念頭に置いております。子どもたちからは、食に対する興味が湧いてきていると思っているので、これが本当に食育につながる活動だと思っています。 先ほども渡辺委員からお話がありましたように、今、健康的なお子さんばかりではなく、いろいろなお子さんがいらっしゃいますので、指導するというか、子どもたちに体験させてあげるのに、例えば障がいがある子どもたちにどう接したらいいのかというようなことを専門的に学ぶ機会が指導者側にもあれば、より深いものを子どもたちに伝えられるかなと思います。活動の中でも食育マスターとしてだけでなく、子どもたちに食育を伝える指導する立場の人間として、食のことだけではなくいろいろな指導の仕方、対応の仕方みたいなものもスキルとして学んでいけるような、指導者の指導というのでしょうか、そういうことが継続的にできていったらいいと思っています。
会 長	そうですね。貴重なご意見、ありがとうございます。指導者研修というような形で、食育マスターのスキルアップをするような仕組みですね。今あるのかもしれませんが、増々組んでいただければというご意見でした。 それではもうお一人、食生活改善推進委員の二木委員より、平成 26 年度の取り組みについて、お願いします。
二木委員	食育マスターについては、小学校、中学校というのは、今まではなかなか地域のお母さんたちは入っていきにくかったという部分があるのですけれども、今はたくさん依頼があります。そこでの依頼は主に郷土料理というものが中心で、そこが切り口にはなるのですけれども、それをとっかかりにして体にやさ

二木委員	<p>しいバランスの良い食事というものを盛り込んでみたり、新潟にはこんな郷土料理が昔から続いているのよというようなことを伝えたりしています。本当に食生活改善推進委員は地域のお母さんたちが研修して動いている団体ですので、それぞれの小学校、中学校の地域のお母さんたちの力が中心です。そういう地域の底力を、子どもたちにも身近なおばちゃんたちがこのようなことをして自分たちの食に関する見守りをしているというような、地域一体型の活動につながっていると感じています。</p> <p>食育マスター制度は本当に定着していると実感しておりまして、いろいろなところからそういう制度があるということを知りつけていただいて幅広く、それこそ障がい者団体からも声掛けいただいていますので、私たちにとってはとても活動の場が広がりますし、皆さんからいろいろなご意見をいただきながらやり方等を工夫してやっているというところです。</p>
会 長	<p>ありがとうございました。それでは、ほかの委員の皆様、ご意見等はありませんでしょうか。</p> <p>それでは、ほかの課で、保健給食課からも何かコメントがありましたら、参加者の様子等お願いいたします。</p>
保健給食課 ：星野	<p>保健給食課です。私どもでは、事業の実施状況の中では、13 番の給食の指導や給食だよりの発行、17 番の児童生徒の生活習慣病検診の実施ということで関わらせていただいております。事業自体は大体実施されているもので、概ね計画通り進められておりますが、昨年度の食育の関係では、小中学校で教育ファームのほうにお邪魔させていただいてそういった事業をさせていただきましたけれども、そういった中で、牛の搾乳体験、それから実際にそこで牛乳を飲んだりということもしましたけれども、そういった実際の体験をとおして学ぶというところが、非常に小中学校の児童生徒さんには、大変賑やかに元気よく楽しんでいただけたのではないかなと思っております。</p>
会 長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、ほかの委員の皆様からご質問がなければ次にいきたいと思いますけれども、次に平成 27 年の予算と事業案の報告がありますので、今言われたような意見が反映されているかという観点からもご確認いただければと思います。それでは、2 番の平成 27 年度食育関連事業及び予算について、事務局よりご説明をお願いいたします。</p>
事務局：大谷	<p>それでは、私のほうから平成 27 年度の当初予算と主な事業ということで、食育関連事業につきまして説明させていただきます。</p> <p>お手元の資料 2-1 をご覧ください。平成 27 年度の当初予算につきましては、新しい総合計画「にいがた未来ビジョン」で示す「地域力・市民力」、「大地・田園の力」、「日本海拠点の活力」を活かしました三つの都市像の実現に向</p>

<p>事務局：大谷</p>	<p>けた取り組みを進めるなど「安全政令市にいがた」の実現を目指すとともに、国が進める地方創生などの補正予算と一体的に編成されております。お手元の資料は、その中から食育推進計画に関連する主な事業を抜粋したものでございます。主なものについてご説明いたします。</p> <p>最初に、災害に強いまちづくりということで、田んぼダムの利活用促進事業についてです。これは農村整備課の所管でございますが、雨水を一時的に水田に貯留する田んぼダムの整備や支援を行い、農地や市外の灌水被害を軽減する取り組みでございます。主に市内の土地改良区が中心となりまして、水田を活用した田んぼダムを行っております。平成 26 年度の実績では 5,013 ヘクタール、特に南区のほうでかなり普及されております。</p> <p>次に、妊娠・出産・子育ての一環した支援、新潟発わくわく教育ファームの推進【拡充】についてです。先ほど説明がございましたが、教育ファームにつきましては、アグリパークやいくとぴあ食花を中心としまして、子どもたちや市民が農業や食に対する理解を深め、ふるさとへの愛情や誇り、生きる力を培うとともに、農業の活性化につなげていくといった取り組みでございます。新年度につきましては、新しく幼児向けの体験学習プログラムを取り入れまして「アグリ・スタディ・プログラム」の本格的な実施を行います。</p> <p>次に、食育の推進事業の拡充でございます。にいがた流 食生活の四つの区分に適合した「えらぶ」「つくる」「たべる」「育てる」力を養うということを目的としまして、農業体験、味覚体験、調理体験の三つの食育・農業体験をもとに、新年度は食育推進事業を拡充いたしております。新年度は、子どもたち向けを中心に五感を使った味覚の教室を実施いたします。</p> <p>次に、食と農と通じた地域づくりとしまして、田園資源の活用推進【新規】についてです。これにつきましては、環境政策課の所管でございます。この主な中身につきましては、もみがらなどの植物系のバイオマス資源をエネルギーとしてより活用していくため、田園資源活用計画を策定するという内容でございます。</p> <p>次に、2 ページをお開きください。花育の推進についてです。これについては、食育・花育センターの所管です。花と緑を教育、地域活動に取り入れ、子どもたちの情操教育や世代間交流、地域づくりを推進します。現在行われています「新潟市花育推進計画」を平成 26 年度に見直しまして、新年度からは市民がより身近な生活の中で花と緑を取り入れ、花のある暮らしを楽しむことを目指し、新たに 4 月、10 月を「花育月間」と位置づけまして、4 月 19 日と 10 月 19 日につきましては「花育の日」に設定するというので、今作業を進めているところです。市民への花育普及計画をさらに充実してまいりたいと考えております。</p>
---------------	---

<p>事務局：大谷</p>	<p>次に、都市型グリーン・ツーリズムの推進についてです。これにつきまして、食育・花育センターの所管でございます。本市の農業・農村の魅力を広く知っていただくとともに、農業を契機とした交流人口の拡大や農村地域の活性化を目指し、食と農の学校や農業体験観光ツアーを実施いたします。観光ツアーにつきましては、奨学米プロジェクト事業などを活用しまして、アピールパンフレットなどでの農業観光から本市の農業・農村の魅力を伝え、広く首都圏からも知っていただく、そういった取り組みを進めていきたいと考えています。</p> <p>次に、セカンドライフ農業体験【新規】についてです。この所管につきましては、生涯学習センターです。主に退職後のシニア世代を対象に、家庭菜園などで活用できる農業体験事業を実施することにより、高齢者の生きがいづくり、仲間づくり、健康づくりを支援し、元気な高齢者の地域社会参加を促す、といった取り組みでございます。現在の中央区の公民館を中心とした事業についても、農業体験をサポートしながらセカンドライフの農業体験ということで取り組むということであります。</p> <p>次に、食文化創造都市の推進についてです。所管は、食と花の推進課です。本市の食と、食文化の素晴らしさに目を向けまして、これらの産業の活性化や交流の拡大などにつなげる地域の創造的な取り組みを、民間による産官学連携組織、食文化創造都市推進会議を中心に実施いたします。具体的な取り組みにつきましては、食文化創造都市推進プロジェクト事業としまして、平成 26 年度には公募した 9 事業を採用、平成 27 年度についても募集事業を行って収益事業の 2 分の 1、収益事業につきましては 20 万円を定額として事業を進めていくというような考え方です。</p> <p>次に、資源循環型社会への取り組み・低炭素型まちづくりということですが、食品リサイクル地域活動支援の拡充についてです。これにつきましては、廃棄物政策課の所管でございます。平成 24 年度から生ごみ処理機を農産物直売所に設置し、市民が持ち込んだ生ごみをたい肥化する事業を亀田地区で行っています。新たに市内に 2 か所、今の計画ではアグリパーク、西蒲巻地区の 2 か所に、生ごみの地域循環の拠点ということで設備しまして、生ごみの地域循環の輪を広げていくということでもあります。たい肥につきましては、直売所で販売する農作物の栽培等に活用するというところでございます。また、家庭におきましては、家庭内での生ごみ資源化を推進するため、段ボールコンポストの減額販売や講習会を開催する計画でございます。</p> <p>次に、3 ページをお開き願います。3 ページの上段でございますが、ニューフードバレーの推進でございます。国家戦略特区の推進【拡充】についてです。所管は、産業政策課でございます。まずニューフードバレーの意味でございますが、食品製造と農業が成長産業として一体となって発展したいという取り組</p>
---------------	--

<p>事務局：大谷</p>	<p>みでございます。本市につきましては、平成 26 年 5 月 1 日に、大規模農業の改革拠点として農業特区に指定されました。国家戦略特区の推進をするため、区域会議の開催や区域計画の策定、市独自の食品機能性表示制度の創設に向けた調査検討、農業分野への信用保証制度を利用した融資などを行います。新聞等でも記載がございましたが、昨年 12 月 19 日に区域計画が認定されています。6 事業者の計画が認定されまして、本格的な特区がスタートしております。</p> <p>続きまして、農業・農村の多面的機能の維持・発揮【拡充】についてです。所管は、農村整備課でございます。農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮を図るため、農地や水路、農道等の地域資源の適切な保全管理活動に対し、農業者や地域住民などで構成される活動組織が共同で取り組む地域活動を支援する仕組みでございます。新年度からは今までの事業をさらに拡充するというので、例えば農地の水路とか農道についての共同活動、そして植栽による景観形成等の共同活動、施設の長寿命化というような取り組みを行っていく活動でございます。</p> <p>次に、食と花の世界フォーラムです。所管については、食と花の推進課でございます。平成 27 年度の計画につきましては、11 月 4 日から 11 月 6 日の 3 日間、朱鷺メッセを会場としましてフードメッセ、食の国際見本市、同時に本市主催の 6 次産業化フェアを開催しまして、国内外への販路拡大を推進し、拠点都市としての規模を高めていく取り組みでございます。また、花の国際セミナーなど、花関連事業を開催する予定になっております。</p> <p>次に、2 月補正予算、経済対策関連の地域消費喚起・生活支援型の補正予算でございます。この事業につきましては、地方創生事業の補正ということで実質的には平成 27 年度に事業を本格的に行いますが、予算手当につきましては 2 月補正で下りている事業でございます。</p> <p>その中の地産地消推進事業についてです。所管は、食と花の推進課です。地産地消に取り組む小売店、飲食店などが参加するキャンペーンを実施することで、市民に地場農産物を消費する機会を増やしてもらい、地域内における農産物の循環システムの形成を促進いたします。具体的には、プレミアム付きの商品券を発行する予定になっております。また、地産地消キャンペーンフェアを実施する予定でございます。</p> <p>続きまして、資料 2-2 をご覧ください。資料 2-2 につきましては、平成 27 年度の食育・花育センターの当初予算の概要でございます。目的につきましては、記載のとおりでございます。</p> <p>事業内容につきましては、まず食育の推進につきましては、センターができて 3 年が経過する中で、平成 27 年度は重点事業ということで食育事業全体を大きく見直しをして、よりよい形の食育推進をしたいという熱意で、事業費も</p>
---------------	--

<p>事務局：大谷</p>	<p>1,500万円ということでアップしての予算計上となっております。</p> <p>次の教育ファームの推進につきましても、重点事業ということで、先ほど申し上げました幼稚園、保育園向けの農業体験学習プログラムといったものを充実するというので、こちらも予算アップして4,135万円となっております。</p> <p>このほか、後ほど再度説明いたしますが、東アジア文化都市関連事業の事業費として、75万円が別立てで計上されております。</p> <p>次に、花育の推進についてです。花育の予算につきましては、花・花ということで、878万7,000円ということでゴロ合わせをさせていただいております。これは、市民の皆様が見たときに分かりやすく、何かやるのではないかという期待感を込めて、春がくればチューリップが咲く時期ですので花を楽しんでいただくということで、新年度からは花育の日を設けるということで、4月18日、19日には、こちらの施設で新潟オランダ協会さんとか、あるいは新潟花絵プロジェクト実行委員会さんといった皆さんと共催で、市民の皆さんから花絵づくりなどいろいろな体験をしてもらう企画を準備しております。</p> <p>次に、農村・都市交流の推進事業につきましては、先ほど説明した都市型グリーン・ツーリズム、奨学米プロジェクト、首都圏からも新潟市の農業を知っていただく、そういった取り組みを平成23年度から行っています。こちらで委員をされている諸橋委員から全面的に応援していただいております。そういった取り組みをさらに広げていきたいという事業でございます。農業サポーターシステム推進事業も、農作業を手伝いたい、あるいは野菜作りに興味がある、そういった市民の皆さんを募集いたしまして、今現在、平成27年度に向けて365名の皆さんから登録いただいております。受け入れ農家も60軒ということで拡充させていただきまして、新年度の事業をスタートいたします。事業費につきましては、記載のとおりです。</p> <p>次に、食と花による交流の推進でございます。これにつきましては、記載のとおり団体体験プログラムの提供にあたってのバス代の支援とか、あるいは季節イベントの企画費用とか、そういった費用を計上いたしまして、いくとびあ食花各施設と連携した食と花の情報発信を行う事業でございます。</p> <p>次の管理につきましては記載のとおりです。</p> <p>合わせまして1億878万7,000円、前年並みの予算ということで事業費を組ませていただきました。</p> <p>このほか、先ほども出ましたが、東アジア文化都市関連事業ということで2015年新潟市が指定されまして、中国の青島市、韓国の清州市の3都市で3か国の共同事業を開催するというので、アグリパークで農業体験交流をしようということで、子どもたちからそれぞれ参加いただいて3か国で農業体験をやるという企画を今進めています。</p>
---------------	--

<p>事務局：大谷</p>	<p>それから、食育の関係については、中国料理、韓国料理を楽しむ企画の準備を今進めております。花育についても、季節イベントとあわせながら中国の花、韓国の花を紹介するといった企画を進めようということで、それぞれ魅力ある食育、花育、教育ファームという三つの切り口で、東アジアの皆さん、あるいは市内在住の中国、韓国の皆さんといった方にも声をかけていきたいと考えています。</p> <p>続きまして、資料2-3「いくとぴあ食花団体体験プログラム集」をご覧ください。最初の1枚をめくりますと、まず1ページから2ページにかけて、食育・花育センターのプログラムがございます。前半のほう、食育の事業として各プログラムが記載されています。後半のほう、花育のプログラムが載っているということでございます。子ども創造センターについては、12の団体プログラムを載せてあります。動物ふれあいセンターについては、16のプログラム、合わせて46のプログラムがございます。この選び方については、次のページに実施要領がございます。この実施要領のところは記載のとおりなのですが、対象につきましては、保育園、幼稚園、学校、それから放課後の学童保育、地域の団体など、原則10人以上の団体について受け付けております。実施日は、原則毎週水、木、金ということで、平日にお願いしております。市内はもちろんですが、市外の方についても受け付けていたしております。</p> <p>平成26年度の市内だけで見た場合の保育園、幼稚園、学校などの団体プログラムの利用状況につきましては、138校・園、約7,000人の方からご利用いただいております。そのうち小学校では57校、3,680人の方からご利用いただいている状況でございます。</p> <p>平成27年度の取り組みとしまして、すでに第一次募集ということで、市内の保育園、幼稚園、学校につきましては1月に募集を行いまして、2月末現在の申し込み状況では、保育園、幼稚園、小学校、特別支援、合わせて77校・園、うち小学校が30校ということで承っております。こちらの申し込みがあった市内の各小学校・園につきましては、1団体につきバス代3万円以内までを年1回支援するというので、すべて承認しております。今後も受け付けをしておりますので、申し込みすることができます。</p> <p>少し飛びますけれども、28ページをお開きください。もうひとつのプログラムということで、いくとぴあ食花では、小学校、中学校、特別支援学校向けにアグリ・スタディ・プログラムを用意してございます。プログラム内容につきましては、(1)アグリ・スタディ・プログラム集ということですでに作成済みのもの、それから(2)ということで4月に新規のプログラムを発行するものということで、次のページを見ていただくと、小学校向けプログラム、中</p>
---------------	--

事務局：大谷	<p>学校向けプログラム、一番下に幼稚園、保育園向けのプログラムということで記載がございます。そのようなことで、アグリパークといくとぴあで、アグリ・スタディ・プログラムの実践を行うということでございます。特に平成 27 年度は、いくとぴあ食花でもアグリ・スタディ・プログラムの体験メニューをしつかりとやっていくということが一つの大きなステップでございます。</p> <p>以上をもちまして、平成 27 年度の当初予算、食育関連予算につきましての説明を終わらせていただきます。よろしく願いいたします。</p>
事務局：和田	<p>引き続き、資料 2－4 の説明をさせていただきます。平成 27 年度の食育推進事業の拡充の内容について、説明いたします。</p> <p>食育推進事業を拡充するねらいは、第 3 次新潟市食育推進計画の策定を見据えて今後の方向性を示し、具体的な取り組みができるように準備をすることです。これまでどおり市内の関係各課がそれぞれの立場で主体的に食育の推進に取り組むということに変わりありませんが、整備が完了しました食育・花育センター、アグリパークといった二つの拠点施設を活用した取り組みと、市民の皆様により身近な地域での取り組みの両面から拡大していくことにおいて、食育推進の本課である食育・花育センターが本格的に事業実施の主体となり、進めていくことが必要であると考え、政策の企画立案、その実施がしやすい体制の整備と、そのための予算の確保が必要であると考えました。</p> <p>そういったねらいを定めた上で、テーマを「生きる力を育む『食育・農業体験』」としまして、その第一段階を平成 26 年度からスタートした教育ファームの推進、第二段階を子どもたちが「味わうことの大切さ」や「食べることの楽しさ」を実感することできる味覚教室をとおした体験の提供とその普及・啓発としまして、それを新たに実施すること、それに加えて、既存の事業を拡大するといったことを踏まえまして、平成 27 年度食育推進事業を下記のポイントに基づいて拡充するということが重点事業化の提案をして、予算要求を行いました。</p> <p>平成 27 年度食育推進事業拡充のポイントの一つ目としまして、「味覚月間・味覚週間」の創設と（仮称）にいがた流 味覚の教室を新たに実施いたします。「味覚の教室」というのは、五感を使いながら、味の基本となる四つの要素、甘味、酸味、塩味、苦味と日本の食文化を支えているうま味の五つの味についての知識ですとか、味わうことの楽しみに触れる体験型の学習のことをいいます。うま味を含む五つの基本の味、味を感じる仕組みや和食を支えるだしとうま味などにつきまして、目、耳、手、鼻、口や舌といった五感で感じる体験、経験をしてもらうことで、食の基本となる味について学んで、普段の食生活においても食品やその内容や素材、調理の方法などについて関心を持ってもらい、積極的に食に触れることの楽しさを持つきっかけづくりをするという内容</p>

<p>事務局：和田</p>	<p>となっております。</p> <p>資料2-4の裏面になりますが、小学校編としまして、市内の小学校で、対象に応じて味覚体験のみのものと、味覚体験と調理体験を組み合わせたものの二つのパターンでの実施を想定しております。実施にあたりましては、先駆的に取り組みを行っている「味覚の一週間」事務局と連携のうで取り組みを行います。平成26年度に情報提供という形で市立小学校のほうに「味覚の一週間」事務局が実施している取り組みについて紹介させていただきました。その結果、9校22クラスから申し込みがありまして、実施につながっております。</p> <p>こちらの事務局の取り組み方法として、講師の方については無償のボランティアということになっておりますし、食材とかそういったものについても講師の方が準備するということとされております。そういった部分について、取り組みが広がっていくよう、講師の謝礼ですとか、食材も含めた材料費等について、市が助成することで取り組みの拡大を図りたいと考え、予算を計上しました。また、小学校編だけですと対象が小学生のお子様だけになりますので、食育・花育センターをはじめとした拠点施設での拠点施設編と、ミニ体験編として小学校編では対象とならない小さなお子様や大人の方にも味覚の教室に参加していただける機会を設けて、食への関心を持っていただくきっかけづくりをしたいと考えております。</p> <p>拡充のポイントの二つ目としまして、ニーズに則した地域での取り組みを拡大するために、「食育マスター制度」の充実を図ります。食育マスターを派遣している食育活動については、内容も徐々に高度化してきているということから、利用者・食育マスターの双方から、1回当たりの派遣に係る助成対象の人数を増やしてほしいという要望が寄せられておりました。また、派遣回数増加に伴い、予算規模を上回る派遣申請が寄せられております。これまでは食育推進事業全体の中でやり繰りしながら対応してまいりましたが、予算的な裏付けについても明確にすることが必要となりました。こういったことを受けまして、1回あたりに派遣できる食育マスターの人数を、現行の2名から3名に1名増としたうえで、100回の派遣ができるだけの予算の確保をいたしました。</p> <p>三つ目としまして、食育・花育センター主催の料理教室の内容を充実させるために、毎月の料理教室の実施回数と、その中でも保育付きの教室の実施回数がそれぞれ1回ずつ増やせるように、月9回、保育付きの教室は2回から3回実施できるような予算を確保しました。</p> <p>四つ目としまして、食育・花育センターが提供する団体体験プログラムを充実させるために、外部講師の登用が可能となるような予算を確保しました。</p> <p>こういったことを基に予算要求を行った結果、平成27年度の食育推進事業の予算額は、前年比約280万円増の1,500万円となっております。</p>
---------------	--

<p>事務局：和田</p>	<p>第3次計画の策定を踏まえた食育推進事業の実施イメージとして、2枚目のA3カラーの資料をご覧ください。市民の皆様の食育への関心や実践に向けた意欲を底上げする取り組みとしまして、主に普及・啓発に関する事業、食育の日を契機とした取り組みですとか、食育推進キャラクターの活用、普及資材の作成や配布といったものを行いつつ、食育マスターの皆様を積極的に活用したうえで、食育・花育センターとアグリパークの二つの拠点施設や、各地域で全市的に行われている取り組みをさらに充実させて牽引することで、市民の皆様を徐々に食育に関してステップアップさせていくというイメージを描いております。</p> <p>牽引するという意味での新たな事業の、第1段階が教育ファーム、第2段階が味覚教室、この二つを平成27年度から本格的に実施すると同時に、第3段階として子どものみの調理体験についても実施できるように準備をしていきたいと考えております。取り組みの進捗状況、進展状況を見たうえで、平成29年度を目途に第三段階を具体化して、この三つの取り組みを第3次計画の中心となる取り組みと位置づけて進めていきたいと考えております。</p> <p>引き続き、「新潟発わくわく教育ファーム推進事業」の拡充内容について、担当ディレクターの佐藤より説明申し上げます。</p>
<p>事務局：佐藤 信</p>	<p>もうしばらくお付き合い願いたいと思います。</p> <p>それでは、私のほうから、来年度の「新潟発わくわく教育ファーム事業」につきまして説明をさせていただきます。先ほど来いろいろと説明がありましたので、簡単にお話させていただきます。</p> <p>資料2-5をご覧くださいと思います。来年度事業の本事業の目玉でございます。一番上に書いてある文章そのものでございます。今年度に策定いたしました幼児向けの8プログラムを新たに実施していくということ、それから2年目を迎えます市内各学校の授業と農業体験を結びつけた農業体験学習プログラムの本格実施を行うということが、平成27年度の教育ファーム事業の目玉ということでございます。</p> <p>そこで、今年度も実施してまいりましたが、アグリ・スタディ・プログラムを活用する市内の園、学校につきましては、円滑に実現するために交通費や宿泊費を支援していくと。また、その際に専門的見地から指導者の方からのお話等が必要であれば、講師の謝礼等についても支援をしてまいります。当然のことですが、その補助の対象につきましては、保育園、幼稚園にも拡充してまいります。</p> <p>アグリ・スタディ・プログラムのメインステージでありますアグリパークの利用、表の左側のアグリパークのほうの利用でございます。おかげさまで、すでに来年度の予約が終わっておりまして、市内の小中学校、特別支援学校も</p>

<p>事務局：佐藤 信</p>	<p>6月、7月、9月、10月は、平日はほぼ満杯の状態です。何とか冬に入っていただきたいということで各学校にもお願いしているのですが、冬には、新たに参加していただく保育園、幼稚園から冬のほうに来ていただければということで働きかけを行っているところでございます。</p> <p>それから、先ほどもお話がありましたが、来年度、宿泊を伴う学校が非常に増えております。また日帰り利用の傾向も、小規模校から中規模校の利用が多かったのですが、今年の実修の成果が良かったのか、大規模校の日帰り利用の予約が増えております。</p> <p>また、幼児向けのプログラムの補足でございます。先ほど、ご意見もあったのですが、野菜くずを利用した元気な野菜を作る「菌ちゃんリサイクル元気野菜作り」ですが、これにつきましても、幼稚園、保育園で保護者の方も一緒に参加していただくようなプログラムも用意してございます。</p> <p>それから、少し話し忘れましてなのですが、目玉の事業ですが、障がい者向けの農業体験プログラムです。これも策定しているということで、今、知的障がい者の方を対象にパイロット的かどうかという話をしておりまして、そのプログラムを策定してパイロット施設等々から実施していただくかなという段取りでございます。</p> <p>以上でございます。そのようなことで、支援対象の拡充などを行いながら、教育ファーム全体の充実を図っていきたいと考えてございます。</p>
<p>会 長</p>	<p>ありがとうございました。それでは、かなりいろいろと説明いただきましたけれども、ご説明に対しましてのご質問、あるいはご意見などがございましたら、自由にご発言ください。</p>
<p>立山委員</p>	<p>先ほど、2でということだったので、質問させてください。</p> <p>この拡充内容のところなのですが、多分味覚に親しむということと、それから学年が上がっていくと料理教室が入ってくるということだと理解しているのですが、もし分かるようでしたら、年長的に具体例か何か教えていただけるといいと思います。</p> <p>というのは、先に自分が思っていることを言いますけれど、味わうということになるのであれば、多分食事もするという事なので、口の中に入れてもぐもぐと噛んで味を感じているということなので、噛むというか、咀嚼というか、小さなお子さんだと何回噛んだかなということでも成り立つのかなということが入っているのか、どのように味覚というものを感じられていらっしゃるのかなと思ったものですから。味覚に親しむということなのだと理解しているのですが、その辺をもう少しだけ具体例を教えてくださいなと思います。素敵な事業だと思いますので、よろしくお願いたします。</p>

<p>事務局：黒 崎</p>	<p>食育係の黒崎です。</p> <p>なぜこの味覚の体験を小学校でするかというと、味覚を感じる味蕾が最も敏感になって発達するとき、本来味覚というのは、お母さんのおなかの中にいるときから何らかの対応をしていき、離乳食、幼児食といったあたりでの食体験がベースになっていくものではあるのですが、私どもといたしまして、この食育・花育センターでできることとして、子どもたちに対してさまざまな取り組みをしている中で、味覚を感じる味蕾がもっとも発達する時期の小学校にターゲットを当てて、そこでいわゆる五味を五感を使って体験してもらって、それをきっかけとしていろいろな調理体験、農業体験など、いろいろな形で体験をしていくわけですが、そのあたりとリンクさせていければいいなど考えているところです。</p> <p>現在、味覚を十分に認識できない子どもも大学の先生の研究成果として出ていて、小学校の1年生から中学校3年生を対象にした味覚の調査をある大学のほうで実施した結果、3割くらいの子どものさんが正しく感じるができなかったというような報告がされていると。味覚というのは非常に慣れやすいので、普段から味の強いものを食べていると味蕾の感覚が鈍ったり、そしてそれが普通となって本来の食品が持つ自然な味を美味しいと感じにくくなるといったことがありますので、味覚が発達する時期に濃い味付けのものに極端に偏った食生活をするということは、やはり将来の生活習慣病のリスクの増加にもつながっていくというところで、そういったところでこの時期にやろうかなと考えるところです。</p>
<p>立山委員</p>	<p>趣旨はそのとおりなので、私も心配してこういうのをやったほうがいいのかと思っていますので、正しいことだとは思いますが、私が企画を立てる人間ではないので余計なことかなと思ったのですが、口の中に入れるということは、噛まないとだめですよ。なので、せっかく味わうということやっていくのであれば、正しく味覚を感じるか感じないかというのはおっしゃるとおりだと思いますが、味わうということになると、どうしても口の中に入れる。ただ合っている、合っていなかったということだけではなくて、硬いものもあるね、複雑になるねということも小学校の低学年のときから感じていただけるような要素も入れていただくと、もっと楽しく子どもさんが参加してくださるかなと。こちらの意図が、多分からめられた意図になるかなと思ったのですから、具体的にされているのであれば余計もともとだと思ったのですが、現状と今後の教室と盛り上げるために少しお尋ねしたかったのです。</p>
<p>事務局：黒 崎</p>	<p>わかりました。そういった要素も入れていきたいと思います。ただ単純に甘いとかしょっぱいとか、五つの味を味わうということに特化するだけではなくて、また、ただ舌に置いて味わうということだけではなくて、そこに咀嚼、嚙</p>

事務局：黒崎	<p>むということが加わると、いわゆる口中調味と言われますけれども、より美味しさが感じられることになりまして、今回は五味、だしの味を加えて五つの味というところにもっていつているのですけれども、甘い、しょっぱい、酸っぱい、苦いの四味に加えて、日本の和食の原点であるうま味というものも含めて、お料理として完成したものを口の中で咀嚼して嚙んで食べることによって、より正しい味覚を学んでいただき、よりその美味しさを感じることができる、本物の味が分かるということにもっていきたいと思っていますので、今具体的にどのような形で構成するかということまではいっていませんけれども、そういった要素は入れようと考えております。</p>
立山委員	<p>お願いします。ありがとうございました。</p>
会 長	<p>今のご意見を参考に、また企画を立てていただければと思います。</p>
岩田委員	<p>今のことに関連してなのですけれども、当校で、今年度の味覚の事業、来てもらってやりました。春のこの会のときに紹介いただいたので、5年生と6年生で行いました。来てもらいました。</p> <p>今お話があったとおり、最初に五感の講義みたいなものが簡単にあるわけですが、その後、実際に昆布などでだしをとったものを口に含んで、中には初めてそういうだしの味を意識しながら味わう子もいて、そういう体験ができたということで、非常に意義深い味覚の授業だったと私は思っています。私は、体験の素晴らしさ、本物を見られるという素晴らしさを伝えることができたのではないかなと思っています。</p> <p>今度は意見なのですけれども、やってみて思ったのですけれども、味覚の体験、いわゆる講義と調理体験の両方があるわけですが、やるならば、調理体験が後半のほうがいいです。時間の都合で先に調理をやって、それから講義ということがあったのですけれども、それはあまり流れからするとよくないなと思いました。</p> <p>それから、補助者3名とここに書いてあるのですけれども、補助者に入ってもらうのはとてもいいことだと思いました。当校の場合、地域のボランティアの人たちが入ってくれて、その中には保護者の方もいました。保護者も子どもたちと一緒にそれを体験することで、特に小学生ですので、小学生の子どもたちが共有する場にすることで、家の人も巻き込んでというところが私は非常にポイントだと思います。家に帰ってから、こうだったねとか、ああだったねというようなことが話題になるのがいいのではないかなと思いました。</p> <p>最後に質問ですけれども、30人3学級で同時に開催できるようにと書いてあるのですけれども、これは、具体的にはどのようなことなのですか。</p>
事務局：和田	<p>最後のご質問の30人3学級で同時にというのは、1学級を30人と想定しまして、3学級が同時にということで、その学校で90人が体験できるような予</p>

事務局：和田	算的な配慮ということです。16校分としても、学級とか、児童数の少ないところ、多いところがありますので、1回で90人分の予算が確保できるような形で16校分を措置したということです。食材とか材料的な部分について90人分の予算を確保しています。
岩田委員	<p>予算の面でということだということで、わかりました。</p> <p>実際にやってみるとわかるのですけれども、学校で家庭科室を使ったのです。そうすると、一遍にやれる人数は30人くらいが限度なのです。そうしたときに、それができるかどうかというあたりも考えていただきたいと思います。ありがとうございました。</p>
会 長	ありがとうございました。それでは、ほかの委員の方はいかがでしょうか。次年度の計画についてです。平成26年度の状況などを踏まえてご判断いただければと思います。
二木委員	<p>食育マスターなのですが、予算の拡充ということで1回3名で100回ということなのですが、平成26年度は117回ということで、100回以上の要請があったという報告がありました。これは、順番に100回になった時点で予算がなくなったので終りという形にするのか、それとも要請があったものをある程度精査して、その中での100回にするのかというところが少し気になるところです。</p> <p>もう1点が、アグリパークでいろいろなプログラムを用意していると思うのですが、実際に一番要望が多いものを参考までに教えていただけたらと思います。</p>
事務局：和田	今回、1回30人で100回分ということで予算措置させていただいたのですが、制度上は予算の範囲内ということでお話をさせていただいています。これだけの予算を確保してもさらに超過するとなれば、その次の年以降、事前に情報提供させていただいたうえで、例えば平成28年度は取り組みをしたいという要望を先に伺って、その中で調整していくといったことも検討しなければいけないとは考えております。ただ、平成27年度につきましては、この予算を超えても食育推進事業の予算の範囲内で対応できるものについては、対応させていただきたいと考えております。
事務局：佐藤 克	アグリ・スタディ・プログラムについては、授業と関連したプログラムということで教育委員会と連携してつくったものなのですが、教科と結び付くとなると、なかなか授業の進捗とかといった部分で学校のほうでの活用が難しいということもあり、いろいろな教科の中で変則的な活用を図れる特別活動という部分で、体験を自由に組み合わせることができるものがあるのですが、例えば搾乳体験とピザ作りを組み合わせるとか、そのように気軽にできる体験が人気がありまして、多分一番人気があるのは、搾乳体験をして、その搾乳から採った後に牛乳を飲むというようなプログラムかピザ作りのプログラム、そ

事務局：佐藤 克	ういったものが人気としては高かったものだと思います。
会 長	<p>ありがとうございました。ほかにいかがでしょうか。それでは、また後で伺っていきたいと思いますので、次に進めたいと思います。</p> <p>(3) の第3次新潟市食育推進計画の策定について、お願いいたします。</p>
事務局：和田	<p>それでは、資料3-1、3-2を基に説明させていただきます。</p> <p>最初に資料3-1をご覧ください。こちらの資料は、先日開催されました内閣府主催の都道府県政令指定都市食育所管課長会議の際に配布された国の第3次食育推進基本計画の策定スケジュールとなっております。最初に部長のあいさつにもありましたとおり、国の食育担当部局が内閣府から農林水産部に移管されるということを受けまして、国の第3次基本計画については、平成28年2月中に決定するというスケジュールが組まれております。</p> <p>新潟市の第3次計画についても、国の計画を踏まえた内容とする必要がありますので、どのような状況かということに注視しておりましたけれども、先日の会議の中では計画の具体的な中身については示されませんでした。平成27年10月頃に予定されているパブリックコメントの前に、国の計画の方針が明らかになるとされておりますので、その状況を引き続き注視していきたいと思っております。</p> <p>続いて資料3-2をご覧ください。こちらの資料は、第3次新潟市食育推進計画の策定について、策定の方向性とスケジュールの案を示したものとなっております。こちらの内容について、ご意見等をいただきたいと考えております。</p> <p>第3次計画策定にあたっては、コンセプトを「食育の実践に向けた取り組みのさらなる強化」としまして、施策展開については、市の推進体制はこれまで同様、食育の本課であります食育・花育センターを中心に関係各課がそれぞれの立場で食育に関連する取り組みを実施するという点に変わりはありませんが、食育の推進の本課の役割を、これまで以上にコンセプトの実現に向けてねらいを定めたより具体的な事業の企画立案とし、その実施ができるようにすることと、施策展開と目標数値指標とを結び付けて事業の実施に対しての評価も対象とするといったような形で、食育の本課の役割をより明確にしたうえで、事業を適切に実施したかどうか、そしてそれが目標に掲げる数値指標に対してどのように影響を及ぼしたかが分かりやすくなるよう、整理をしたいと考えております。</p> <p>目標数値指標につきましては大きく改編をしまして、市の施策展開の実践度とそれによる市民の意識の変化と食育の実践度の二つに大きく分けて設定したいと考えております。第2次計画の目標数値指標につきましては、食育推進計画本体に位置づけ、目標数値指標とするものと、関連計画ということでほか</p>

事務局：和 田	<p>の市の関係計画に位置づけがあるものについては参考数値指標とするといった形で区分し、施策展開に合わせて必要に応じて新たな目標数値指標を設定するという事としたいと考えております。食育・花育センターの施策につきましては、食育推進計画本体に位置づけた目標数値指標の向上を主眼とするということで考えております。</p> <p>裏面の策定スケジュールをご覧ください。次回の平成 27 年度第 1 回目の会議におきまして第 2 次計画の中間評価を行ったうえで、第 3 次計画の内容をより具体化して、国の第 3 次基本計画を踏まえたうえで、平成 27 年度第 2 回目の会議の際に素案を提出させていただきたいと考えております。食育推進会議の協議、パブリックコメントなどを経て、平成 29 年度から第 3 次計画に移行したいと考えております。</p>
会 長	<p>ありがとうございました。ただ今の第 3 次の計画策定につきまして、ご質問、ご意見はありますでしょうか。</p> <p>まだ始まっているわけではないので、ないようでしたら、今までの内容についてや報告も含めて、皆様からご意見などのお話いただきたいと思います。せっかく年 2 回しかない会議で、さまざまな方面の方から参加いただいておりますので、一言でもいいので何かコメントをいただきたいと思います。医師会関係で、横田委員からお願いします。</p>
横田委員	<p>医師会の横田ですけれども、去年の秋から参加させていただいて、今回 2 回目の会議に出席させていただいたのですけれども、私は、今まではまったくこのようなことをやっていることがわからなかったです。おそらく小学生や中学生とか、小さい子どもをもっているご両親といった方々はよくご存知だと思っておりますけれども、一般の市民がもう少しこういった素晴らしいことをやっているということが理解できるような啓蒙が何かできないかなということも前回も考えていましたし、今回も感じているところです。そういうことで、何かいい方法があればいいと思います。</p>
会 長	<p>ありがとうございます。それでは、歯科医師会の岡崎委員、お願いいたします。</p>
岡崎委員	<p>先ほどアグリ・スタディ・プログラムを含むわくわく教育ファームについてご説明いただきました。できて早々なのに、もう来年度は 6 月からいっぱいということで素晴らしいなと思いましたが、おそらくすごく混んでいる時期とそうでない時期というのが出てくると思います。そこに参加された学校が毎年この時期にこのプログラムをやりますというようなことで固定されてしまうと、ほかの学校が入れなくなってしまうようなことも起きてしまうのかなと、少し懸念しました。それだと、ほかの時期にずらして似たようなプログラム体験で補うのかどうかわからないのですけれども、そういったところを固定化してしまうとどうかなと思いますし、ほかのプログラムで補えるようなこ</p>

岡崎委員	とができれば、そういったところのプログラムの充実なども考えていただけたらと思いました。
会 長	ありがとうございました。それでは、生産者の諸橋委員、いかがでしょうか。
諸橋委員	今年度からセカンドライフ農業体験で新規に事業ができたのですけれども、この内容について私はいい事業だなと思っています。実は、私のところでも現在定年退職といえますか、男性、女性が7名くらい来ているのです。いろいろと段取りしてもらって、あとはできた野菜をお届けするのですが、皆さん、定年になったのだけれども、世のため人のためになっているという気持ちがあつてか、非常に元気がよくて、農家のほうも非常に助かっているものですから、こういう事業を今後も拡充、拡大していただきまして、一人でも多くの市民の方々から生きがいつくりの場としてこういう事業に積極的に展開していただけると良いと思います。今年度の事業の内容を見て非常に評価し、関心していました。
会 長	ありがとうございました。私も、珍しい事業だと思って拝見していました。それでは、JAの瀬倉委員、お願いいたします。
瀬倉委員	<p>JA新潟みらいの瀬倉です。私も、先ほど来の新しい事業の中で味覚の教室にもものすごく興味を覚えて、どんなことをやるのかなとお話を聞きながら考えていたのですけれども、うちも子どもたちへの食育の中で調理実習とかをやっているのですけれども、やっと昨年から初めて味噌汁をだしを使ってやるということを実践したのです。それまでは恥ずかしながら顆粒だしでやっていたのですけれども、だしを使うことで味噌の量が半分くらいまで減りました。だしを使うことでこれだけ味噌の量を減らせるということが自分自身もやってみて初めて分かって、女性部といううちの組織の農家のお母さんが1班に一人ずつみたいな形で講師をしているのですけれども、そのお母さんたち自身もなかなか普段家でだしを取るなどということはなく、ここで改めて勉強できてよかったねと、私自身もそうでしたし、農家のお母さんたち自身もそうでした。ですので、味覚の教室というところは、ぜひ進めていただきたいと感じています。</p> <p>それから、1点質問なのですが、アグリパークの体験事業は、もちろん子どもたちが優先だということは知っておりますが、うちも大人向けのそういった活動を、アグリパークの米粉のピザ作りみたいなものをやりたいなと思って、昨年お電話したら小学生が優先だからそこが終らないうちは受け付けられませんと言われたのですけれども、もう平成27年度はある程度決まったということであれば、これからだったら空いている日を申し込みできるのか、まだ4月以降にならないとダメなのか、そこをもし分かったら教えていただきたいと思えます。</p>

事務局：佐藤	具体的にはアグリパークのほうと直接詰めていただければと思うのですが、特に子どもたち優先というのは、多分平日の場合は学校が優先になるのですけれども、土日や夏休みのシーズンについては、むしろ一般の方々にどんどん使っていただきたいと思うので、そこでアグリパークと連動した企画などをつくっていただくと、一般市民向けの方にアピールなどができるのではないかなと思っています。
会 長	ありがとうございました。それでは、中央青果の坂井委員、お願いします。
坂井委員	中央青果の坂井と申します。よろしく申し上げます。 やはり先ほどからいろいろと説明を聞いた中で、この食育に対する取り組み、非常にいい取り組みだと思って聞いておりました。これからも青果市場の立場で、何ができるかわかりませんが、いろいろと積極的にお手伝いをしていきたいと思っておりますので、今後もよろしくお願いいいたします。私のほうからは、以上であります。
会 長	ありがとうございました。では、水産関係で藤田委員、お願いいいたします。
藤田委員	食育推進関連事業の今後の展開に関しまして、先般農業特区に指定されたということが市にとっては大変大きな出来事なわけですけれども、農業特区に指定され、今後この事業が展開されることに関して、食育推進関連事業の展開はどう関わるのだろうかということをお聞きしたいと思います。ニューフードバレーの推進などという項目も出ておまして、二十数億円もの予算が出ているということで、関連ないわけではないと思っておりますし、その辺はどうなのでしょう。
事務局：大谷	答えになるかどうか。ニューフードバレーの推進という役割の中で、農業特区という大規模農業の改革拠点を目指すという新しい事業が動いております。こういった中で、ニューフードバレーの根本的な中に、その支える部分、食育、教育ファームというものが一つのキーワードになっておまして、食と農の体験を通して人づくり、地域づくり、そういったソフト面を充実させ、将来的に新潟の食と農の魅力を知っていただく。それには、やはり食生活が豊かでどういったものがあるのか、あるいは食育の面でどういった利点があるのかということ子どもたちからしっかりと育てていくというところの観点が非常に大事だと思います。そういったところを食の関連事業の中で、ニューフードバレーの中の一つの土台の下として食育、農業体験というものが位置づけられております。こういった中で食育も進めていきたいと思っています。
会 長	ありがとうございました。それでは、清水商事の小柴委員、いかがでしょうか。
小柴委員	よろしくお願いいいたします。清水商事、清水フードセンターと言ったほうが通りがいいと思っておりますけれども、清水フードセンターにおきましては、定例の取り組みといたしまして、食育の日を中心にのぼりを出したり、リーフレット

小柴委員	<p>等で取り組みをさせていただいて、食への意識と申しますか、その取り組みの一端を担わせていただいているところなのですけれども、小売りにおきましては、今、お客様の健康ニーズと申しますか、健康に対する関心が非常に高く、そういった食を通じた健康という意識が非常に高まっております。そのような中で、将来を担うお子さん方にすくすくと育っていただくためにということで、当社におきましても、旬のものですとか食にまつわるいわれといったものを、ただ商品売るだけではなくて、提案していきたいと考えております。</p> <p>その中で1つ、質問というところで、食と花による交流の推進という項目がございましたが、その中で3か国共同の農業体験というご案内があったと思っておりますけれども、これについては、中国とか韓国とか、一つ例が出ましたけれども、食を通じていろいろなことに興味を持って、グローバルな時代ですからその国の文化、食文化を通じていろいろ幅広くといったように、非常に可能性を秘めているところだと思います。平成27年度の取り組みについては中国、韓国というところで、国レベルでは非常に微妙な関係性の国ですけれども、こういった地方行政の中で取り組みは進んでいるなど感じます。今後につきましては、この東アジア中心というわけではなくて、どのような形で他国との情報交換と申しますか、広がりを考えていらっしゃるのか、その辺を聞きたいと思っております。</p>
事務局：大谷	<p>まず、先ほどご紹介したのが、東アジア文化都市関連事業として、3都市間でアグリパークを使った農業体験を新潟でやってもらうという企画を今進めているということが一つ。行政視察等のいろいろな関連がございます。新潟市にはいろいろな姉妹都市もございます。そういった都市と子どもたちが、確か平成26年中はハバロフスクの子どもたちがこちらの施設を視察したり体験したりということで、私のご案内申し上げました。これは、学校支援課、教育委員会が窓口になっております。それから、子どもたちにこちらの施設を見ていただくような交流の仕方、あるいはこれから食文化という中で、食文化創造都市としてのユネスコ認定というものについても、改めて今前向きに進めていると聞いております。そういった中で、食文化交流もすでに中国の視察を受けたりとか、いろいろな形でおいでいただいております。そういった皆さんと、食を通してつながるという形で、新しく開けていくと、そういう中で子どもたちもこちらでの体験ということが段々増えてくるのではないかなと思っております。そういった交流を大事にするうえで、新潟の誇る食育、そして農業というものの土台づくりと申しますか、しっかりとした受け皿づくりをしていくと。そういう面では、アグリパーク、いくとびあ食花は、その中核になってくるだろうと思っております。</p> <p>また、特に先ほど藤田委員から質問がありましたけれども、新潟市も6次産</p>

事務局：大谷	<p>業化から 12 産業化まで目指すということで、農業というキーワードを使いながら教育、子育て、そういった面で活かしていくということを考えております。そのような視点を大事にしながら、生産者である農家の皆さんの協力を得ながら、市民の皆さんの協力を得ながら、いろいろな団体との調整をしながら、こういった受け皿づくりを進めていくということで、農林水産部は大変忙しいセクションになっていまして、いろいろな部とも連携させていただいております。当センターだけでも教育委員会、福祉部、環境保健衛生部、環境部と、横軸連携で今動いているというのが現状だと思います。そういった中で国際交流的な要素も広げていきたいと思っています。</p>
会 長	<p>ありがとうございました。それでは、消費者ということで消費者協会の井上委員、いかがでしょうか。</p>
井上委員	<p>消費者協会の井上と申します。このようなプログラムの中で体験ができる子どもたちは、私たちと違って幸せなことだと思いますが、幼稚園とか学校を卒業するまでに 1 回だけではなくて何回でも体験ができればいいと思いますし、いつでしたか、この「菌ちゃんの野菜作り」に参加したことがあるのですが、にんじんがとても美味しかったのが印象に残っております。もし、幼稚園の園庭が広いところがあるのでしたら、本当にそういう指導を受けさせていただいて、子どもたちが作る場所から食べる場所まで体験できればいいなとも思っております。そのように計画が進められればうれしいです。</p>
会 長	<p>ありがとうございました。公募委員の山下委員、お願いいたします。</p>
山下委員	<p>市民として参加させていただいております山下と申します。前回、8 月よりこちらにお邪魔して、いろいろと聞かせていただいております。</p> <p>市民として生活している中で、今まであまり知らないでいたライフステージごと、ライフスタイルごとに非常に具体的な取り組みがされているなということで、新潟市のほうで食育・花育にすごく力を入れていらっしゃるなと感じております。その中で、第 1 次と第 2 次と取り組みにどんどん肉付けされて広がりが出てきていると思うのですが、それを市民が一つ一つ体験していったときにどうなるのかなというワクワク感とともに、実際に目指す姿というのはどんな姿なのだろうなと感じながらお聞きしておりました。また、市民の一人として、以前料理教室に参加させていただいたことがあるのですが、教室の中で勉強させていただくとともに、参加する方同士でその後ももう少しつながりが持てたらなと感じておりました。以上です。ありがとうございました。</p>
会 長	<p>ありがとうございました。事務局の計画の中に、その後のつながりですね。そういうものをつくっていただけたらと思います。</p> <p>それでは、栄養士会の牧野委員、いかがでしょうか。</p>
牧野委員	<p>今日は参加させていただいて、これだけの計画を、これだけわかりやすく見</p>

<p>牧野委員</p>	<p>せていただいて、本当に嬉しく思っています。私事なのですが、私はいろいろな会議に初めて参加させていただいているのですが、こんなにていねいに分かりやすく事業の中身を教えていただいたということについて、本当に嬉しく感じております。</p> <p>ただ、食育ということについて、私自身が病院しか知らない研究者なものですから、学校給食のことについてはもちろん、食育ということは今回初めてで、大変きちんとした専門でないお話なのかと思うのですけれども、私たち栄養士は、食事のことを考えていながらも、どうしても食のことは栄養価に縛られ過ぎて、視野が狭くなっている面もあります。ぜひ、学校の栄養士も含めて栄養士を引っ張り出して、子どもたちに広い食というもの、伝統というものを考えながらもっと広げていかなければいけないと、そういうところに私たちを使っただけだということと、最近スポーツを含めてスポーツ栄養ということで、栄養士の中で勉強を始めているグループがありますが、なかなかスポーツをした後にこれだけの栄養価が必要だよと話す機会があまり与えられなくて、ここはスポーツの場ではないのですけれども、畑を作るといっても田んぼを耕すということもみんな労働というか、動くという力の源になるわけですから、そこに栄養というものがどういうものなのかということを知ってもらえる場に、ぜひ私たちに参加させていただく機会をいただきたいと思います。よろしくお願いたします。</p>
<p>会 長</p>	<p>ありがとうございました。それでは、保育園の立場で須田委員、お願いたします。</p>
<p>須田委員</p>	<p>鳥屋野保育園の須田と申します。先日、アグリパークでの実際の体験の研修に行っていました。そこで私は感動して帰って来たのですが、そのとき、先ほどの話にありました吉田先生の「菌ちゃんのお話」のお話だったので。保育園というところは、1年間の食育計画というものを立てます。年間で立てていく中には、その年齢に合った食育の計画を立てていくのですが、そこで保育園は、まず植物を育てて、苗から実をならせて、ならせたものを自分たちで収穫して、それを切って、ちぎって、調理して、そしてそれを給食でいただくなり、自分たちで食べる。この中に全部網羅して実践していると思うのですけれども、あのお話を伺ったときに、今度質のことを考えました。その質、作って、立派な中身のものを、一段階レベルアップしてやってみたいなどすごく感じているところです。ですので、ぜひあそこでの研修という機会を取り入れて、例えば実際に携わるような年長さんの先生を対象にとか、そういう機会を今後も設けていただくとありがたいなと思うことと、給食では地産地消ということが一番を謳っていますので、その辺も保育園では、ご協力という言い方は変ですけれども、このプログラムに合ったことを実践できている</p>

須田委員	<p>のかなと思っています。</p> <p>もう一つは、いくとびあの団体体験プログラム、これも素敵と思いながら、一日の中で、保育園でお弁当を持って来て、ここで一日過ごして帰ることができる。そのことも少し考えられるなど。どこの保育園でも実践できるなど、何か実行に移せるなどと思って、期待してとても嬉しく見させていただきました。</p>
会 長	<p>ありがとうございました。先生方に対する研修というのは、保育園の先生方に対する研修というのは、非常に有効かなと感じたところです。</p> <p>最後に石原委員、報道の立場からお話をお願いします。</p>
石原委員	<p>新潟日報の石原です。私は、今現在報道部で生活面担当のデスクをしております。生活面というところは、医療ですとか福祉、衣食住の問題をテーマにすることが多くて、その中でもやはり食とか健康というものはとても読者が興味を持っているテーマの一つです。食育などについても、時期を捉えてテーマにしていく必要があると思っており、今回この会議を通じてさまざまな立場で頑張っていらっしゃる方のお話を聞くことができ、とても勉強になっています。今後ともお世話になることがあると思いますが、よろしくをお願いします。</p> <p>私たちの紙面でもそうなのですが、どうしても何か記事に取り上げるときに、イベント的なものに目がいく傾向にあります。それはそれで興味を持ってもらうということではいいのですが、なかなか全体の底上げといいますか、本来伝えたい、全体の構造がどう伝わっていくのかということが、自分たちでどうなのかなと思ったりすることがあります。多分、それはおそらく行政の立場からも同じだと思っていて、やはり今回この味覚の教室ですとか、結構ユニークでご質問が相次いでいる新規事業などもありますけれども、やはりそういったイベント的な単発の政策にとどまらないで、全体の底上げにつながってほしいなと思っています。</p>
会 長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、最後にどうしてもこれだけは言いたいということがありましたらお願いします。</p> <p>ほかにはないようでしたら、その他ということで、事務局から何かございますでしょうか。</p>
事務局：黒崎	<p>特にありません。</p>
会 長	<p>なければ、以上で本日の議事は終了したいと思います。</p>
事務局：黒崎	<p>それでは、議事のほうはこれですべて終了いたしました。村山先生、どうもありがとうございました。</p> <p>最後に、事務連絡を事務局のほうからさせていただきます。</p>

事務局：黒 崎	<p>まず、報酬のお支払いについてですが、4月27日月曜日を目処にお支払いをさせていただく予定になっております。よろしくお願いいたします。</p> <p>二つ目、委員の交代が必要な場合についてですけれども、委員の任期は2年となっているため、来年度、平成27年度につきましても、皆様には引き続きお願いすることとなりますけれども、所属されている団体等で役職の交代があるなどして、食育推進会議の委員を交代する必要があるという方がいらっしゃいましたら、お手数でも事務局のほうにご連絡をお願いしたいと思います。</p> <p>三つ目、来年度の会議の開催予定についてです。今年度と同様、1回目を8月、2回目を3月といたしまして、年2回の開催を予定しております。会期が近づきましたら日程調整等をさせていただきますので、ご協力よろしくお願いいたします。</p> <p>以上です。こちらにつきまして、ご質問等はございますでしょうか。</p> <p>ないようでしたら、本日予定しておりました内容につきましては、以上で終了となります。これで第2回食育推進会議を終了いたします。本日は、皆様、お忙しい中どうもありがとうございました。</p>
------------	--